TAIZÉ

テゼからの使信 2023

内なる営みと連帯

人類という家族にとって、そして被造物全体との関わりにおいて、普遍的な友情の源はどこにあるのでしょうか。この問いに対するさまざまな答えが、世界中の人々の霊性の伝統の中で長い時間をかけて育まれてきました。

キリスト者が、みずからの信仰をより深く理解するときがいま来たのです。それは自分たちを前面に出すためでも、すべてのことに答えを持っていると主張するためでもありません。運命に服従せずに現代の大きな問題に取り組むことを選択した人々と、より効果的に共通の探求に参加するためなのです。2023 年に向けたこのメッセージは、現代におけるキリスト者のありようを刷新するための行動の道筋を明らかにしようとします。

「祈りと正義の行動」、これが、 第二次世界大戦の恐ろしい時代に、ディートリッヒ・ボンヘッファー牧師が直観したことです。ボンヘッファーは、獄中でキリスト者としての生き方の本質を考え、戦争の悲惨さの中で、「祈り」と「正しい行動」を実践しました。戦争の悲惨さの中で、彼は立ち上がりました。その時代の暗闇の中で、彼ははっきりとこう理解しました。

「わたしたちが今日キリスト者であるということは、二つのことに限られ

るでしょう。祈り、そして人々の間での正義の行動です。キリスト者のすべての思考、発言、組織化は、この祈りと行動から新しく生まれなければなりません。」

（ディートリッヒ・ボンヘッファー（1906-1945）。ルター派の教会の牧師。ヒトラーに対する抵抗運動に関わり、1943 年に投獄され、1945 年に処刑された。彼の著作、特に獄中で書かれた手紙や考察は、戦後も大きな影響を与え、現在も多くの人々に読み継がれている。）

この直観を今日どのように生きるのでしょうか。それぞれ、自分なりの答えがあるでしょう。テゼではこう答えます。わたしたちの内なる営みと他者との連帯を深めることによって、言い換えれば、わたしたちの祈りの生活を育み、そして同時にわたしたちの友情を広げることによってと。

日々の生活の中に神の存在のしるしを見出すには、ディートリッヒ・ボンヘッファーの証しが助けになります。彼は当時、全き悪が働いていると強く感じていました。しかし、過去および現在の多くの人々と同様に、内なる力によって、最悪の暴力を前にしても、彼は人類に絶望することなく、希望と神への信頼を選択することができたのです。

そして今わたしたちも、この日々の状況において、信頼の道を選択することができます。この世界のただ中で、この世のものでない光を識別することができるのです。たとえ、どんなに状況が困難で、神がわたしたちの叫びに答えていないように感じられるときでも、その光はすでにわたしたちの心の中で明けの明星のように昇っています。（2 ペテロ 1：19）

ブラザー・アロイス（テゼ共同体・院長）

信頼という選択

若い世代をはじめ、多くの人が重荷を負っている今、わたしたちは何をすれば見方が変わり、創造力を目覚めさせることができるのでしょうか。確かに、さまざまな不安はあります。世界観や自分自身のあり方に深く影響を与えるような、深い不安感を抱く理由は確かにたくさんあります。中には、神や神の存在を疑いたくなるような状況に置かれる人もいます。

心配、それは理解できる反応です。心配は、それによってわたしたちを脅かす危険なものに気づき、それを理解し、楽観的になり過ぎずに的確に物事を見つめるとき、有益かもしれません。しかし、運命論や不信感や恐怖に囚われて、負のスパイラルに陥らないように注意しなければなりません。

このような行き詰まりを避けるために、福音書はわたしたちの前を歩まれるキリスト・イエスを指し示して、わたしたちを方向づけます。キリストは、その生涯をとおして喜びを体験され、そして心配をも体験されたのです。キリストは敵意の対象となり、最後には十字架という暴力の極みにさらされました。しかし、死が終わりではありませんでした。神はキリストをよみがえらせ、彼は永遠に生きておられます。これこそが福音の驚きです。その最初の証人たちは、この使信を信頼する冒険の道へとわたしたちを招いています。

キリストは今日もすべての人とともに歩まれ、すべての人に神の無条件の愛を伝えておられます。神は、その息吹である聖霊によってわたしたちを立ち上がらせ、すべての人に根本的な尊厳を授けられます。

外から来るものだけに導かれるのではなく、この内なる光、信仰、すなわち信頼を迎え入れるのです。

祈りをとおして刷新を希求する

自分の人生、他の人々、世界を新しい仕方で見るためには、一人ひとりが内なる一歩を踏み出すことが必要です。その一歩とは、自分の奥深くに、神の優しさに満ちた存在を迎え入れることです。これは、福音書が回心と呼ぶ内的な方向転換を伴うもので、そこでわたしたちは神からの慰めを迎え入れ、それをとおしてますます人々を愛するようになります。

だれでも、内なる沈黙のときを過ごし、耳を傾ける空間を整え、神との交わりを見出すための時間と場所を探すことが大切です。イエスはすでに友にこのように勧めています。「祈るときは、奥の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい」。（マタイ６：6）

今日、この招きは時代の流れに逆行しているようにも思われます。物事の両極化が進み、社会で、ときには教会で、そして家族でさえも分裂が拡大している時代をわたしたちは経験しています。このような状況では、騒音や偽りが、時間を必要とする静かな内なる歩みをかき消してしまうのです。

だからこそ、祈りが重要なのです。祈りは希望の源であり、平和な静けさへの道です。それは、対立する人々や異なる地平から来る人々との対話の扉を開き続けさせます。

他者と一緒に歩む

個人的な祈りに加えて、もう一つの招きがあります。それは、他者と共に歩くという招きです。普遍的な友情のしるしを探しながらともに歩く道です。内なる営みは外から分断された営みではありません。それは、同じ探求を共有する人々との協働の中で続いてゆくのです。

わたしたちは、キリスト者の目に見える一致の実現を育むことからすでに始めることができます。もちろんそれは、敵意に満ちた世界に対してより強くなるためではなく、福音のダイナミズムを全開させるためです。共に祈るためには、すべての神学的な問題が調和されるのを待つ必要はないのです。

他の教派のキリスト者と会うと、時には相容れないと思われる見解の相違に気づくことがあります。実際、少なくとも概念的にはそのようなことがあります。それを強調するのではなく、共に祈ることから何度も始めるという道を選択するのです。このような一致の実践は、神の民が共通の信仰告白に向かうことを可能にします。

おそらくこのことは、わたしたちの教会理解を変えてゆきます。愛することを選択する教会、キリストに従って歩む大きな家族としての教会という理解がますます深まるのです。平和のパン種になるために、今こそわたしたち自身の間に分裂を助長させることを止め、決して出会うことのない平行線の上にとどまることに終止符をうつ時です。

この目に見える一致を求めることは、わたしたちの教会で時に行われてきた悪を認識すること、そして必要な変化をもたらすために確固たる行動をとることと手を取り合って進めねばなりません。多くの人々の信頼が打ち砕かれました。テゼでも、ある人たちの信頼が裏切られたことがあり、そのこと

をわたしたちは真剣に受け止めています。信頼は壊れやすく、何回も再生され、再構築される必要があります。そしてそれは、傷ついた人々の声に耳を傾けることによってのみ可能となるのです。

この点に関しては、テゼのヨーロッパ大会（ロストックで開催）で公表されるブラザー・アロイスのメッセージ「真実を確認し続けること --教会そしてテゼにおいて--」を参照してください。
www.taize.fr/protection

友情を広げる

世界的な家族の創造に貢献するために、教会は来るべき神の国のしるしとなるようにと、そしてわたしたちは、今日何をすべきか聖霊に耳を傾けるようにと招かれています。ここでは、他の人たちとの分かち合いを深めるために、そのような呼びかけのいくつかを紹介します。

・今日、多くの人々にとって、帰属意識は自分のアイデンティティを形成するために、より重要なものになりました。しかし、その帰属意識は、他者との対立や衝突ではなく、尊重と出会いをとおして育まれるものです。そうです、他者の中にある真実の部分を探し、それがわたしたちを成長させるのです。

・互いに尊重し合うとき、異なる宗教を信じる者同士の対話が可能になります。この対話において、他者に心を開くことができるのは、自分がみずからの宗教の伝統に深く根ざしているときです。それは、枝を大きく開いて伸ばすためには深い根を必要とする木のようです。たとえ、相手と深い信念を共有できないというある種の苦しみがそこにあるときでさえ、本物の友情は可能です。

・今日、多くの人々が、人種差別やさまざまな形の差別がいかに深く人間関係や社会に影響を及ぼしているかを痛切に感じています。そこで、他者に対する見方を変えるためのあらゆる道を一緒に摸索するのです。たとえば祖国を離れた人々の声に耳を傾けます。そのようにして、他者の中にある豊かさを受け入れるとき、すべての出会いは宝となります。

・わたしたちは、地球の声に十分耳を傾けているでしょうか。最近増えている環境災害や異常気象が告げているように、わたしたち人間の活動や怠慢は、このすばらしい地球を傷つけています。神から人類に託された責任を思い起こすことが急務です。政治的、経済的な決断は不可欠ですが、わたしたち一人ひとりがすでに生活のありようシンプルにし、創造の美しさに驚く心を新たにすることができるのです。

・ウクライナをはじめ、世界の多くの場所で勃発している戦争・紛争を前にして、まるで悪を前にして神が不在か沈黙しているかのように感じ、祈ることが非常に難しいと思う人もいます。しかし、平和のために祈ることは、戦争の悲劇にひどく苦しんでいるすべての人々に対する責任感と連帯感を呼び覚まします。それは、攻撃者に道を譲って生じる安易な平和を求めることではなく、永続する平和を希求して、正義と真実が確立された真の平和を求めることなのです。そう、平和のための祈りは、これまで以上に急務なのです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

わたしたちキリスト者にとって、神への信頼は希望の源です。それは未来

への恐れを凌ぐ強い希望です。それは無責任な信頼ではなく、心の深みに根ざした確信です。神の創造の御業が今も続き、わたしたち自身もそのために働くように招かれているという確信なのです。それは次世代のために責任を担おうとする選択です。

平和が実現不可能な理想に見え、暴力が国々の家族を離散させ、あらゆる危険がわたしたちを不安にさせるとき、わたしたちはまず自分を見つめるのです。内なる営み---それがたとえとても貧しいものに思えても---によって、そして隣人との連帯と広がる友情によって、復活されたキリストがわたしたちに会いに来てくださるのです。キリストはわたしたちの展望を変え、より広い世界へとわたしたちを導き、想像もしていなかった新たな一歩を踏み出すよう招いておられます。このキリストをわたしたちは今迎え入れるのでしょうか。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「共に歩む」

キリスト者のさらなる一致を求めて、「神の民の集い：共に歩む」というイベントが 2023 年 9 月 30 日に開催される予定です。詳細は、「キリスト教一致祈祷週間」に発表されます。

テゼでの集い、夏の特別週間、次回のヨーロッパ大会などについての情報は、テゼのウェブサイトをご覧ください。www.taize.fr